

令和5年度  
足立区青少年委員会  
ブロック教育懇談会記録

足立区青少年委員会

## 目 次

1 ブロック . . . . .	1 ページ
2 ブロック . . . . .	5 ページ
3 ブロック . . . . .	9 ページ
4 ブロック . . . . .	16 ページ
5 ブロック . . . . .	19 ページ
6 ブロック . . . . .	24 ページ
7 ブロック . . . . .	26 ページ
8 ブロック . . . . .	31 ページ
9 ブロック . . . . .	34 ページ
10 ブロック . . . . .	36 ページ
11 ブロック . . . . .	40 ページ
12 ブロック . . . . .	42 ページ
13 ブロック . . . . .	46 ページ



2. 千寿本町小学校（杵浦 PTA 会長・久保田開かれ会長）

- ・ 増田校長長期政権 10 年目で、絶大なる信頼感をもっています。杵浦家の 3 兄妹は全員、増田校長にお世話になっています。増田校長無くして本町小は語れない状況です。
- ・ 本町小のモットー、「つよく」、「かしこく」、「あたたかく」のもと、とても素直な子ども達です。
- ・ 運動会では伝統の 1 年生のたまごっち玉入れで、応援団含め全校生徒で楽しく踊りました。
- ・ PTA 執行部 12 名で、保護者と先生方との距離も近く、地域と連携し楽しく活動しています。
- ・ 学校と地域の関りが非常に密接で、協力して色んな行事を毎月のように行っています。

3. 千寿桜堤中学校（齋藤校長・蓮池 PTA 会長・奥山開かれ会長）

- ・ 今年度は 14 学級 471 名でスタートしています。
- ・ 「桜咲くサクチュウ魂」で、自分で考え行動し豊かな心の育成は勿論ですが一人一人の頑張りが一つの学校を築いていくと考えます。
- ・ 運動会「桜魂祭(おうごんさい)」では、1 年生の時に色を決め（4 色）縦割りの色分けで競います。
- ・ PTA は委員会制ではなく、サポーター制で本部が行事毎にお手伝いを募り、活動しています。
- ・ 本年度からは一人会長の体制で来年度の創立 20 周年に向けて、楽しく全力疾走していきます。

4. 千寿双葉小学校（星崎校長・川井 PTA 会長・北島開かれ会長）

- ・ 元青少年委員の北島会長と田辺青少年委員があたたかい目で子ども達を見守ってくださっているところが自慢です。
- ・ 学校要覧より、3つの重点的取り組み。地域の方と協力してあいさつの励行
- ・ 体力の向上では、投げる力が向上し、全学年男女ともに区都の平均を上回りました。
- ・ 金管バンドの活躍が多くなっております。
- ・ 農業推進として屋上で千寿葱を育てています。
- ・ いじめ防止やジェンダーのピンクのものを身につける日を設けています。
- ・ 開かれによる水曜日の寺子屋（年間 15 日）に帝京科学大学の学生ボランティアに来ていただき、子ども達の基礎学力向上に努めています。
- ・ 子ども達の挨拶が自慢です。学校外でも一度立ち止まって、元気に挨拶してくれます。
- ・ 芸大生によるクラシックのコンサートを年に一度開催しています。

5. 千寿常東小学校（村上 PTA 会長）

- ・ 3つの自慢があります。1つ目は土の校庭、キャンプファイヤーやBBQができます。2つ目は1963年築の古い校舎、世界に名だたる新校舎の建築を待ち望んでいます。3つ目はこれからのPTAとして、規約を改正しました。

6. 第一中学校（駒井副校長・松沼 PTA 会長・小林開かれ会長）

- ・ 他者を思いやる優しい子ども達、人の役に立ちたいと思っている子が多いです。
- ・ 若い教員（20代30代前半）が多いので、誠実、公平であること、何かあればすぐに対応し、前向きに捉えていく。恐れずに挑戦しつつ、持続可能なことも考えていきます。
- ・ 子ども達の主体性を伸ばしたいということを強く考えています。
- ・ PTA 役員が去年の倍になり25名です。強力で楽しいPTAです。
- ・ 地域との結びつきが強く、夏祭りや千住大橋仮装パレードを開催します。

7. 千寿桜小学校（渡辺校長・中屋開かれ会長）

- ・ 区の指導力向上中核校の指定を受け、理科4年目です。（10年計画）
- ・ 全校で桜学習コンテストを取り組んでいます。（計算や都道府県名など）
- ・ 知的障がいの特別支援学級が3学級あります。
- ・ 縦割り班活動として、異学年交流をオープンスペースで行っています。
- ・ 図書館が広く、蔵書が2万冊を超えています。図書ボランティアさんによる読み聞かせ活動も盛んに行っています。・桜の木が22種類あります。
- ・ 開かれは家庭教育部と土曜事業部の2つあり、家庭教育部では年中行事の飾りつけを行っています。プログラミング教室や陶芸教室も開催しています。土曜事業部の花壇活動は18年続いています。

8. 千寿第八小学校（桐敷校長・入澤 PTA 会長・松林開かれ会長）

- ・ 506名の可愛い子ども達が毎朝元気に挨拶して登校しています。給食はいつも空っぽになり、校歌は体育館の屋根が飛ぶかと思うくらい大きな声で歌います。子ども達が宝物だと思っています。
- ・ PTA 私たちの子を私たちが見るという新しいPTAに変えていきます。
- ・ PTA で ICT を活用し、負担を軽減していく。広報誌もデジタル化
- ・ 登校時の旗振り当番を継続するために改善をしています。

9. 千寿青葉中学校（根本校長・甲田 PTA 会長）

- ・ 校舎は全館バリアフリー、中庭があります。多目的ホールが広いです。水道の蛇口数が多く3階と4階には24個ずつあります。更衣室も各階にあります。給食室がガラス張りで作っているところが見えて、室温は常に20度です。教室数が21もあり、まだ10クラスの余裕があります。

- ・青葉プロジェクトがあり、常に思いやりと責任、挑戦をキーワードに子ども達が自主的に色んなことを考えて行動しています。
- ・運動会の応援パフォーマンスは3年生がリーダーになり、練習風景に感動しました。
- ・先生方も勉強熱心で生徒思いです。
- ・PTAは地域とのつながりが非常に強いです。地区の夏祭りの参加など。
- ・年に一度、三遊亭兼好師匠の高座を開かれで開催しています。

10. 総評（足立区教育委員会 教育委員 小関朝之 様）

- ・教育委員として学校回りをされていて、コロナからの千住地域の変化が激しいと感じています。行事等もいろいろと再開されていて、懇親会では楽しく皆様方の結束を深めていただけたらと思います。
- ・先生方の働き方改革を行ってありますが、なかなか難しいのが現状です。
- ・青少年委員皆様には青少年の健全育成のために、日々ご尽力をいただきまして、ありがとうございます。

懇談会終了後、19時頃から場所を移して懇親会を開催しました。和やかな雰囲気の中で親睦を深めました。

以上

# 令和5年度 足立区青少年委員会 第二ブロック教育懇談会

開催日	令和5年6月27日(火)	会場	江南センター
時間	懇談会 18:00~19:00		
参加者 (敬称略)	<p>足立区教育委員会子ども家庭部青少年係長 白石 光洋  足立区青少年委員会会長 多島 三好  足立区青少年委員会副会長 松崎 顕治  足立区青少年委員会第7ブロック長 三橋 浩二</p> <p>① 校長②副校長③開かれた学校づくり協議会会長④PTA 会長・代理⑤青少年委員  宮城小学校・①臼田治夫②田村大輔③下川佐智子④工藤隆朗⑤田中則聡  江南中学校・①半村拓哉②神戸昇③竹之内茂樹④山口美郁⑤前田博司  江北小学校・①武智勇喜②松田安弘③斎藤直秀④原陽子  扇小学校・①池野正信②中岡理和③清水康弘④鈴木智恵・降谷あゆみ⑤遠藤滋子  江北桜中学校・①金子哲朗②檜森誠③今西靖彦④西山弥生⑤橋本博子</p>		
会議次第	<p>《 教育懇談会 》</p> <p style="text-align: right;">司会 遠藤 滋子</p> <p>1、開会の辞 田中 則聡</p> <p>2、ブロック長挨拶 第2ブロック長 田中 則聡</p> <p>3、来賓挨拶 足立区教育委員会子ども家庭部青少年課係長 白石 光洋 様</p> <p>4、幹事校校長挨拶 宮城小学校 臼田 治夫 様</p> <p>5、テーマ 講演「生きやすさにつながる配慮とは」  ペアレント・メンター あだち</p> <p style="text-align: right;">熊谷 洋子 様  町田 彰秀 様  野口 紀佳 様  川松 佳織里 様</p> <p>6、青少年委員会挨拶 足立区青少年委員会会長 多島 三好 様</p> <p>7、閉会の辞 遠藤 滋子</p>		
テーマ	<p>「生きやすさにつながる配慮とは」  ペアレント・メンターあだちより3名の講師を迎えて講演。</p> <p>ペアレント・メンターの活動として、ADHD、発達障害の生きづらさを持った子ども達の支援を行っている。</p> <p>《活動内容》</p> <p>1、相談  (①ぴあトーク(個別相談)、②ぴあサロン(グループ茶話会)、③フリータイムデイ(月1回)、④げんき出張サロン(ほぼ月1回))</p> <p>2、サポートファイルをつくる</p> <p>3、啓発活動や研修に出向く</p> <p>4、学びの場を創る</p> <p>5、経験を見やすく公開する</p>		

なぜ、配慮が必要なのか

- \* 誰にでもふつうに見られる困り感
- \* 「困り感」からきづきと対策へ

…たび重なる困り感

…度を越した困り感

- \* それって「発達障がい」？

…わかること、できること、苦手、できないことの差がはげしい。

これらは努力不足ではなく、脳の機能障害。

小中学校の通常学級の 8.8%に発達障がい？

(2022 年の文部科学省調査では 35 人学級に 3 人発達障がい)

小学生…10.4% 中学生…5.6% 高校生…2.2%

《特徴として…》

①感覚の特徴(すべての人が持ち合わせているわけではありません)

- \* 給食の苦痛
- \* 教科書が読みにくい
- \* 目で見えてないと情報が飛びやすい

②気持ちのコントロール

- \* 「急な変更」という予定外に気持ちの切り替えが苦手

③コミュニケーションの苦手

- \* 言葉をそのまま受け取る
- \* 伝えることが苦手
- \* 思ったことをそのまま口にしてしまう

④実行機能の不具合

実行機能とは…

目標のための計画を立て、目標を達成するためぬ自分の行動や思考、気持ちを調整する脳機能のこと。

- \* ワーキングメモリ
- \* 共通実行機能
- \* シフティング
- \* 情報の更新
- \* 抑制

《[発達障がい] の困り感の原因は…》

『脳の機能障害』

努力不足✖、親のしつけ✖

- \* 頑張ってもできない
- \* わかってもらえない



- \* 自分でもわからない
- \* 説明できないし or 説明の必要性を感じない

### 『困り感』…「発達障がい」の懸念

本人の努力では解決できない原因をそのままにしてしまう

→二次障がいの表出(うつ、パーソナリティ障がい、統合失調症、強迫性障がい、解離性障がいなど)

### 『保護者の苦しさ』

- \* お母さんに存在するたくさんの事情・背景
- \* 障がいと向き合う前に必要なおおくのこと・不安・迷い・こころの準備

### 『周囲のあたたかな配慮が大事』

- \* 障がいが見にくい人たちの「困り感」には原因がある。

- \* 良い配慮とは?…絶対的平等とはちがう
- \* 必要な人のニーズ…相対的平等(合理的配慮)

### 《配慮のポイントとは?》

#### ①「場」や「人」という視点

学校はその子にとってどんな場?

同じ学校でも、場面によってその子にとっての場の役割は異なる。

#### ②その子の特性はどのようなものかの把握

感覚の特性・理解力・注意力・ごだわり

- \* あるいは、どんなときに困った行動が起こるかを記録

もしも、身近に気になる子がいたら…

見えてないかもしれないこと(背景)を少しだけ思い浮かべて欲しい

- \* 特別に苦手なことがある かもしれない
  - \* 理由があつてのこと かもしれない
  - \* ご家族も困っている かもしれない
- 心にワンクッションで接してほしい

### 伝え方の提案

- ①良いとこ目線も取り入れて…
  - ②子どものチャンネルに合わせる
  - ③言葉は短く、わかりやすく
  - ④否定からおすすめ口調
  - ⑤ルール化は少な目に
- \* …べき、…はず、は期待できない

さらに課題が深刻なときは…

その子の表出している課題について

現在: 行動そのものが影響する困りごとを解決すること

将来: その子の心が健康で社会で過ごせること

(両方を叶える配慮ができたらと感じている。)

そのためには、専門的な学びや関係機関との相談が大切。





テ ー マ

『コロナ5類に変わった後の学校の様子』

**[懇談会記録]**

令和5年度の第3ブロック教育懇談会は昨年同様に西新井小学校のランチルームをお借りして、『コロナ5類に変わった後の学校の様子』をテーマとして開催し、各校の校長先生、PTA会長に参加していただき。(出席者25名)で令和5年7月6日(木)に行いました。

最初に青少年委員会会長代理 嶋田副会長から御挨拶をいただき、その後、青少年課 白石光洋管理調整係長よりご挨拶を頂きました。次に来賓紹介を行い、今回は木島ブロック長の紹介で琵琶奏者の服部櫻絲さんをお招きして琵琶の寧色を堪能してからテーマ発表にうつりました。

各校自己紹介とテーマに沿った内容を校長先生よりお話していただきました。

各校校長先生からのお話の内容

本木小学校 藤田校長先生

5月に運動会も終わりました。今回はコロナ5類に移行ということもあって観客が無制限ということでもかなりの人数で大混乱になる事を危惧していましたが、PTAの方々ののおかげでスムーズに無事終えることができました。子供たちの様子で言うと、今非常に夏風邪が流行っています。どちらかというところコロナの方はご家族の方がかかっています。うちの子行っていいでしょうかとそういう問い合わせが増えています。家族が増えているということは子供たちにもうつるんじゃないかということで、この後要注意だよなって話をしています。マスクの話がありましたけれども4月から私はマスクをもう取った形で子どもたちを出迎えているんですけど始業式の日にはほぼ100%と言っていいぐらい子供たちマスクをしていました。今だいたい、それでも7割6割ぐらいがまだマスクをしています。あと顎マスクってマスクをしているんですけど顎マスクにしていつでもこうマスクできるような状態にしているお子さんもいますとどちらかというところ高学年のお子さんの方がマスクしているのは多いですね低学年は割ともう外しているお子さんも多くなってきたのかなというところなんです。あと若干ちょっと6月

7月になって気になるところで虐待案件が非常に増えてきました。コロナ禍前より増えているんじゃないかっていうぐらい今本校ではちょっと虐待案件増えてきているので、この後の夏の過ごし方に充分気をつけなくてはならないと思っています。

寺地小学校 立野校長先生

5類になったと言うかコロナが少しずつ穏やかになってきて色々な行事が再開しました。初めはおっかなびっくりやっていたところが最近になって堂々というんでしょうか以前のように活発にできるようになったということで、そういう意味で子供が凄く元気になって来たような気がします。特にうちの小学校で言うと高学年が低学年をいろいろフォローしながらする活動ですとか交流すると言うことが多いものですから高学年がとても元気になってきたなという気がしています。教員から見ると一方でコロナが明けていろいろな活動を再開したときに偶然なのかもしれないですけども、以前と同じことをやっているんですけど体力が落ちているなというのを痛感します。例えば近隣の岡さんに田んぼを借りて田植えの作業というのをコロナ前からしていたんですけども、コロナ前と同じ感覚で教員が企画して実施したところ全くもう作業ができない、ひいひい言って痛い辛いと言うことで全然作業にならなくて後日教員が改めて田植えを手伝いに行ったということがありました。それから原因が分からない骨折も何件か増えていまして何があったんですかって聞いたら、あのしゃがんで手をついただけなんです外から見ていると、ですけど痛いって言って病院に行ったら骨折したそうですっていうようなことが3件ぐらいありました。もともと個人差がある分野ではありますのでコロナ禍の中であつてもスポーツが好きなお子さんはいろいろなことをして体を動かしていますからそういうレベルの子たちは大丈夫なんですけど、運動を苦手としていた子がますますしてなかった3年間があるもんですから少しずつ再開したときにやっぱり怪我ですとか弱音をはくってということが増えているんだろうなというふうに考えております。マスクですけどもあのしばらくずっとほぼ100%みんなしていましたけどここにきて暑くなったのでだいぶ取れるようになってきましたが、でも先ほど左会長に聞いたら、いやまだまだしていますよねっていう話だったんで、これからもう少し動くことも活発になれば取れていくんだろうなと思っていますが、取れという無理強いはできないもんですから様子を見ながら進めている状況です。

第六中学校 鵜飼校長先生

6中ですけれどもほかの学校と変わりません。行事もやっていますマスクは取っている子取っていない子色々です。学校の様子ということでちょっとテーマから外れるかもしれないんですけども、私が一番今本当に悩みというかすごく気になっていることが先生たち大丈夫なのかなというふうに思っています。いろんなものが正常に戻っていくに従ってやるが増えます。「教員採用試験受けません。教師に魅力がありません。」やるが増えるもんですから当然勤務時間が長くなります。昨日私19時15分に退勤したんですけども9割の教員が残っていました。おそらく一時間後も変わらないと思います。20時を境にして帰るんですね、5割ぐらいは21時まで働いているでしょう。何をどうしたらいいのかわからないです。学校は一生懸命これをしましようあれをしましよう、区も何とか「あだちからの日」を作っていますけども何も変わりません。そのうち学校は潰れるじゃないかなと思います。何かしらこういう会議に参加している方で学校を救ってもらえませんか、無くせるものは無くして欲しいです。正直言って本当に大事なものは残さなきゃいけないと思います。それがやっぱり子供たちのためになるのでそういうところで知恵を出し合って進めていかなければいけないと言うことを毎日毎日考えています。

西新井小学校 加納校長先生

学校の様子は他校と同じかと思います。朝の健康チェックや時差登校を廃止したので、短い時間に全校の子どもが一齐に来ることで、子ども間の距離が大変接近しています。また、雨天時などのMeetによる朝会や集会もほぼ無くなり、体育館に集まります。これから様々な行事に保護者の参加も増えるので、金子会長と協力して、親父の会を立ち上げ、PTA活動も盛り上げていただいております。マスク着用は低学年では外している子が多いが、高学年になるにつれ、取ることに抵抗があるように感じます。運動会の応援合戦など、大きな声が聞こえてくるとやっぱり、“昔の学校が戻ってきたなあ”と嬉しく思います。表情もわかり、コミュニケーションも徐々に取れて行けると良いと思います。一点これは我が校の特色なのかもしれないのですが、様々な困難を抱えるケースの中に、小学生の子どもを親が面倒見きれず、祖父母の方が養育されている家庭がふえていることが今、一番心配なところです。

## 西新井第一小学校 秋吉校長先生

学校の中の様子は本当に皆さんと同じです。集会も一番最初の一年生を迎える会は校庭でやりましたが、今は体育館で集会もやっています。運動会も特に制限はなく、やりました。先日、全員参加の鋸南宿泊行事があり高学年ですがマスクは全員はずして生活する場面が見られたので、顔と名前が一致できやすくなったと思いました。先程もありましたが体力の低下免疫力の低下というのを感じるところです。それからやはりご家庭の方でもちょっとこう熱っぽいとかそれからだるいってところでの心配大事をとってのお休みってというのがあります。先週は、やはり季節の変わり目それから夏風邪などの、お休みも多かったです。それからそういった体力の低下もあるがそれでも子どもたちは元気に走り回ったりもしているので少しずつ回復してもらったらいいかなと思っています。あと先ほどのコロナがあけてすべてを戻して行くかどうかという話も出ましたが、私が他地区から来たということと校長も変わったので、これを機にいろいろ見直してみようじゃないかということで学校の中でも進めています例えば前任の時は副校長だったのでほぼアンケート関係は全部デジタル化しました。運動会ですとか学校公開そういったアンケートのお手紙を全てやめました。QRコードをつけてホームでアンケートを答えてくださいみたいな感じにして鋸南の健康観察とかも心配なことがあったらホームでお願いしますっていう形で行いました。お手紙を配っても親に届くかどうか不明な子がたくさんいるので直接親御さんにデータで届いたほうが早いかなということでhome&schoolも始まったのでこちらからお願いしますみたいな形でやっています。少しずつそういったコロナが戻ったけどコロナで導入されたシステムは見直して使えるものを使っていこうという感じで学校の中ではやっています。まだまだ分からないところもいっぱいあるんですが、猪股さん石鍋さんと一緒に、またほかの皆さんにも支えていただきながら学校を盛り上げていきたいと思っていますのでどうぞよろしく願いいたします。

## 第五中学校 石井校長先生

学校の様子は五中も一緒に、入学式だけは、地域の方を呼べず、CSとPTAの長副の方だけでやったのが今年度制限をかけた行事で、それ以降の運動会は制限なしで

実施することができました。明後日には昔は親子ボランティアって言っていたんですが、教員の中から親子ボランティアという名称は今の時代どうなんだろうという意見が出てきたので5VTという5中ボランティアっていうような名前が出てきているんですが、もう少し茶目っ気のある楽しみそうな名称に変わるかもしれませんが予定しています。3年生は晴れていれば地域清掃に出ます、1、2年生は校舎内の清掃を行います、もし明後日晴れていて3年生を地域で見かけたら、お声をかけいただければと思います。校長として、この夏休みにコロナに罹らないで欲しいと思っています。9月には魚沼自然教室とハピフェス、10月には修学旅行と宿泊行事が夏休み明けに続いています。罹ってしまうと行けなくなってしまうので、健康だけは留意して欲しいです。学校公開も地域の方や小学校の保護者の方にもご来校いただき、学校の様子を見ていただきました。マスクははずせていません。体育でも長距離を走っていてもしている子はしています。暑い中でも辛くなるはずですが、息が整うとまたマスクをしてしまうというよう様な状況です。運動会も校長や教員は外そうとやっていたんですが、子どもたちはずしませんでした。コロナうんぬんではなく、自分を隠すため、下着のような感じでマスクをしているのではという気がします。給食はまだ前向きです。黙食ではなくなりましたが、なかなか班にする勇気が校長としてないです。システムという、先ほどお話が出たHome&Schoolで出欠連絡を入れてくれるようになりました。これにより、朝の電話が減り落ち着いて生徒を迎える事ができています。システムとしていいものはぜひ今後とも活用していければいいなと思っております。

興本扇学園 稲葉校長先生

最初にありがたい良いニュースがあったとお話しくださいました。区民の声1通で区が動いてくれたそうです。

・学校の様子ですが、概ね、のびのびと落ち着いている状況です。ただ、目に見えない事柄はあります。

・マスク問題ですが低学年は取っている子が多いが、高学年になるほど、下着化というのがあるようで、取らない子も多いです。集合写真を撮る時でさえも、顔を抑えている子がいました。しかし、熱中症問題もあり、大きな声でマスク外しを話しました



ら、速攻、「校長先生がマスクを強制的に外した」と電話があったそうです。世の中が時代が違ってきていると言われます。

・コロナ禍において、水面下の見えないところで非行や危ない事が多々あり、濃くなっており、心配して日々を過ごしています。SNS 問題もその1つです。

・虐待についても案件は増えています。

・保護者の苦情や文句も非常に多いです。その対応に追われ、教員は疲弊しています。丁寧に説明しても、実際はこうですよと言っても信じてもらえないことが多々あります。

・その中で、PTA 活動を少しずつ増やして、コミュニケーションをとりながら、良いものを作っていこう。新たなものを新たな形でやっていこう。その中に自然な形でそこに出る教員が増えてきたかなと思います。自分たちでゼロから作り上げていこうとする中で、学園のスタートがあるのかなと私は感じていますとお話ししていただきました。

各校長先生のお話の後、管理調整係長 白石様、副会長 嶋田様、副会長 大西様、4 B 長 遊馬様より一言を頂き、石鍋青少年委員の閉会のことばで閉会となりました。

コロナが5類に変わった後の学校の様子や校長先生が思っている色々なことが聞けたこと、3ブロックの顔合わせが出来たこと、有意義な時間でした。

## 令和5年度 足立区青少年委員会 第4ブロック教育懇談会

開 催 日	令和5年7月4日	会 場	梅島小学校 1階 ランチルーム
時 間	18:30～20:00		
参 加 者	講師： 教育委員会青少年課長 物江 耕一朗 様 青少年委員会会長 多島 三好 様 青少年委員会副会長 山田 直美 様 青少年委員会8B長 鈴木 奏子 様  参加者： 第4ブロック小中学校 校長・PTA会長 第4ブロック青少年委員 10名 (計34名)		
次 第	1. 主催者挨拶 4ブロック長 遊馬 正子 2. 来賓紹介 3. 講話 教育委員会青少年課長 物江 耕一朗 様 4. 各校コロナ明けの状況 各学校長並びに PTA 会長 5. 総評 青少年委員会会長 多島 三好様 6. 閉会の辞 4ブロック青少年委員 山本 孝志		
テ ー マ	「若年者支援に向けた青少年課の役割と青少年委員の関わり」		

### 【懇談会記録】

今年度第1回目は、「若年者支援に向けた青少年課の役割と青少年委員の関わり」というテーマで物江様より講話を頂戴し、その後各学校におけるコロナ明けの状況、取り組みや、子供たちの様子についてお話をいただきました。

以下に報告内容を記します。

#### ◆--- 物江様 講話要約 ---◆

- ・子どもをとりまく環境の変化  
 (1) 子ども基本法の施行、(2) こども家庭庁の発足など、子どもまんなか社会の実現に向けて子どもをとりまく環境が変化している。
- ・コロナ禍における活動の停滞  
 コロナ禍では一斉休校、分散登校や各種事業の中止を余儀なくされたが、コロナ明けに事業を再開しようにも当時の状況を知る方がいない。全てコロナ前に戻す事は難しいし、以前のまま残すところは残し、新たに改革するべきところは改革していくなど今後どのように再開していくかが課題。
- ・足立区の子どもを取り巻く現状  
 4つのボトルネック的課題(健康・治安・学力・貧困の連鎖)が根本にあり、都立高校中途退学者数、区内高校進路状況や生活困難世帯の状況などの統計資料で子どもを取り巻く現状が分かった。
- ・これからの若年者支援の考え方  
 青少年課は、「中学卒業後の子どもの孤立・漂流を未然に防ぐ」ため、“予防的側面”を持つ施策を進めていくことで、地域団体とともに若年者支援の一翼を担っていきたい。

① 各地域団体との関係を再構築

青少年課は、能動的に各団体を主導していく。

② 青少年課による「予防」的な若年者支援

青少年課の強みである各地域団体との協創・協働により、「どのような家庭環境にある子どもにも「生き抜く力」を育ませることができる体験事業と「心と場」の居場所づくりを軸とした事業を展開する。」

・ 私たちにできることは何か

- ① 子どもの声を聞いてください
- ② 情報を届ける工夫
- ③ 経験・体験に参加しやすい工夫

・ 具体的な取り組み

① 令和4年1月に「若年者支援協議会」を設置

「中途退学予防の強化」「中途退学後の支援」を2本柱に、子ども・若者を支える様々な機関がネットワークを形成し、専門性を生かした子ども・若者への支援を効果的かつ円滑に実施する仕組みの構築を目指していく。

② 学校で朝ごはんを実施

「健やかな子どもの育成事業」の一環として、学校・地域と連携による朝食会を実施し、朝食・歯磨き・排便の一連の流れを実践することで、朝食の大切さを伝えるとともに、望ましい生活習慣の定着を図る。

③ 男子プロバスケットボール戦の招待

スポーツ観戦の機会を通して経済的・環境的に困難な状況にある子どもたちに夢や感動を伝えることを目的にホームゲームに招待。

④ その他新規事業

「お寺で掃除」企画や、銭湯での「中高生トリオ割り」の導入など様々な新規事業に取り組んで参ります。

★----- 各学校の取り組みについて -----★

◆これまでのコロナ禍での分散対応は必ずしも悪いものでは無かった事を踏まえ、内容によっては今年度も継続してより良い方針で運営していこうと考えています。

◆これまでのコロナ禍の影響で、体力（耐力）が減少している子供たちが増えてしまったので、少しずつ改善していきたいと思います。

◆コロナ禍で出来なかった活動が徐々に増えてきました。子供たちの笑顔も戻り元気な子供たちを見れる事がとても嬉しいです。

◆以前の活動にこだわる事無く、新しい活動や組織作りに取り組んでいきます。

★----- まとめ -----★

**懇談会を終えて**

懇談会を終えて感じた事は、コロナが明けたが、コロナ前の状況に行事も含めて完全に戻す事は難しいので、戻すべきものは戻し、見直しが必要なものは見直して変えていくべき時期であるとい

う事。それは今までの固定概念を捨てて、各校の状況に応じて各校が判断していくべきものだと感じました。私たち青少年委員も学校や地域と協力して、子供たちの為に少しでも力になれる活動を進めていかなければならないと強く感じた懇談会でした。

★当日の懇談会会場の様子です。

◆教育委員会青少年課長 物江 耕一朗様講話の様子◆



◆熱心に聞き入る参加者の様子◆



以上

## 令和 5 年度 足立区青少年委員会 第 5 ブロック教育懇談会

開催日	令和 5 年 7 月 5 日 (水)	会場	足立小学校地域連携室
時 間	18:00~19:30		
参 加 者	第四中学校、第十一中学校、弥生小学校（副校長）、弘道小学校、 弘道第一小学校、足立小学校 各校校長・PTA 会長・青少年委員 足立区教育委員会子ども家庭部青少年課 物江課長 青少年委員会 多島会長、嶋田副会長、関本第 6 ブロック長 <span style="float: right;">合計 21 名</span>		
会議次第	開会の辞、会長挨拶、教育委員会挨拶、来賓紹介、 各校紹介及び学校の現状、懇談会、総括・講評、閉会の辞		
テ ー マ	アフターコロナ・子供たちの笑顔にエール		

### [懇談会記録]

1. 開会の辞 足立区青少年委員会第 5 ブロック長 前島 政章

2. 会長挨拶 足立区青少年委員会会長 多島 三好

コロナで 3 年間教育懇談会や行事ができなかったが、今年度は 13 ブロック全ての教育懇談会が実施でき、始まった。やはり、コロナの影響で子供たちとどう接したらいいのか、マスクをどうしたらいいのかという内容が多かった。あるブロックでは、障害児を持つ保護者が立ち上げた NPO 団体の話で、子供たちとの触れ合いが難しいという内容だった。また、PTA から学校への要求、学校から PTA への要求があり、意見交換が行われた。

本日は色々な意見を出していただき、共有していきたい。

3. 教育委員会挨拶 足立区教育委員会子ども家庭部青少年課長 物江 課長

4 月に着任いたしました 3 ヶ月が経ちました。日頃より、青少年委員、校長先生、PTA の皆様には、子供たちのためにご尽力いただきありがとうございます。

テーマにもありますように「アフターコロナ」で 3 年間活動ができなくて色々和我慢してきたところがあると思いますが、今後皆様の力も必要になりますので、我々も一緒に頑張っていきたいと思っています。

またテーマにもあります「子供たちの笑顔にエール」ということで、子供たちの笑い声が聞こえる街づくりということで、明るく活気のある地域であると思いますので、やはり皆様のお力添えが必要かと思ひます。

お立場お立場がありますが、こういう場でそれを繋げていってほしいと思ひます。

また、今日は、各校の青少年委員、校長先生、PTA 会長の方が 3 名いらしてありますが、1+1+1 の足し算ではなく掛け算にしていきたいと思います。少しでも強くなっていただき、皆さんの悩みや解決方法、経験をうまく連携してさせていただける場にしていただけたらと思ひます。

4. 御来賓紹介 足立区青少年委員会第 5 ブロック委員 佐藤 健二

各校の青少年委員から校長、PTA 会長を紹介

## 5. 懇談会

### 5-1) 学校長、PTA 会長から各校の現状報告と課題について発表

#### 【足立小】

##### 【松田 PTA 会長】

PTA が今の時代に合っていないのではないかとということでアンケートを実施している。PTA 自体が必要ではないという回答は少なく、改善してほしいという回答は 75%ある。PTA への全体加入もつつまが合わないところもあり、委員会も抽選ではなく立候補にしたらいいのではないかという意見は 60%あった。これから学校にも報告し、来年度の総会に向けて、考える会を作って、草案を出せるようにしたい。

##### 【角田校長】

様々な行事を分散したり縮小したりして行っていたものを、今年度は全校が集まって、以前と近い形で行っている。コロナの 3 年間で学んだこともあるので、すべてを元に戻すのではなく、保護者の思いの元に戻してほしいという気持ちをくんで、どうしていくか考えている。

また、学校に対して保護者から個人的なご意見いただくことが多くあり、学校としてどこまで一人一人の思いに答えるべきなのか、どう譲歩したらいいのか悩んでいる。

#### 【弥生小】

##### 【有我副校長】

コロナ前に全部戻すのではなく、必要なものは継続し、必要ないものは切ってもいいのではないか。これから行う運動会や行事など、どのように展開していくか考えている。子供たちのために何ができるのかを考えているが、全部を行ってしまっても子供たちに効果的なのか。子供たちに 1 番いいことは何なのかということを検討しながら探っていきたい。

また、学校の課題は、若い先生が多い。教科指導にももちろん課題があるが、社会人としての礼儀や作法が気になることがある。管理職としてどう伝えていけばいいのか悩んでいる。

##### 【PTA 会長】

今年度は、コロナで 4 年間できなかった夏祭りを 7 月 16 日に開催する。併せてハロウィンイベントなど、大人たちが子供たちに何ができるか考えている。ゼロベースで考えられるのに、すべてのことをすることがいいことなのか。必要なことはやり必要ではないことはやらなくていいのでは。総会も集まってする必要があるのか。簡略化したやり方でできていたので、コロナが明けたからといっても、今まで通りにやらないでいい方向で考えたい。子供たちのためにできることを一生懸命やっていきたい。

また、弥生小学校の子供たちは長座体前屈が苦手なので、子供たちの体力向上という部分で、どうしたらケガをしないようにスポーツができるのか、体がつかるのかということ、教えてあげたい。

#### 【弘道小】

##### 【井上校長】

元の状況に戻るのは、3 年間だからと言って 3 年では戻らないというビジョンをもって、早急により戻しをするのではなく、もっと見極めていかないといけない。子供たちは普段通り楽しくこやかに生活しているが、もしかしたら失ってしまっているものあり、私たちがプラスにしてあげるものがかかっているのではないかと思う。マスクも無理やりにはできないが、価値観が多様化しているので、判断が難しい。ケガにも気を付けていきたい。

【伊藤 PTA 会長】

PTA 活動の透明化を昨年度から進めていて、コミュニケーションアプリでの連絡や引継ぎもデータ化している。PTA を任意加入にしたため、会員数が減少している。

昨年の秋に、学校裏の花壇「にこにこ村」を開墾した。チューリップの球根の植え付けや花の種まき、球根の掘り起こしの体験や花瓶作りなど、子供向けのイベントをしている。育てた夏野菜などを教材として学校に提供した。PTA と開かれた学校づくり協議会、お父さん会、PTA ではない保護者、教員など様々な大人が、植物や野菜を育てるといった活動を軸に、子供たちにいい影響いい刺激を与えられている。大人と子供たちの良好なコミュニケーションが取れている。

【第四中】

【難波校長】

運動会は 4 年前と同じように、全保護者に入っていた。子供たちも声を出しての応援ができるようになった。1 年生は発散できていたようで良かったが、2, 3 年生はコロナの影響がおとなしかった。教員は 4 年ぶりということで、引継ぎがうまくできていなかった。今後どうやって引き継いでいくかが課題。

コロナで出来なかった、弱かったこととして体験、経験が不足していた。今年度は職場体験学習ができ、近隣の小学校を含め 60 ほどの事業所に協力していただいた。ボランティアなどで地域の方々とのふれあいや学校以外での居場所づくりが重要なことだと思う。

区の方針もあり校則が柔らかくなった。置き勉ができるようになったが、宿題で使うものは自己判断で持ち帰らないといけないので、かえって主体性が試されており、責任感が必要になった。

【大都 PTA 会長】

PTA の人集めに苦戦している。入ってもらうには活動してもらうことだと思う。何をしているか分からないと思うので、そこは繰り返し伝えていかなければならない。ある程度強制してでも入ってもらいましょうという意見もあるが、そこは保護者の方を信用しましょうと話している。運動会後のスマホでのアンケートで色々な意見をいただいた。回収率は 75%。保護者の皆さんは結構意識を持って見ている。その意見を吸い上げて先生方と相談し、来年度は変わるかもしれないと繰り返し保護者の方に伝えていく。そして、学校が変わり子供たちの環境も良くなると感じていただき、PTA 活動にも関心を持っていただけるのではないかと。また、PTA が保護者に信頼されるには、私たち PTA が保護者を信頼し、信頼されるためには行動しなければならぬ。行動するには思い、考えを言葉に出し伝えなければならぬと思っている。

個人的に他校の PTA 室訪問をし、多くの方の話を聞きたいと思っている。

【弘道第一小】

【鈴木校長】

マスクの着用を含め感染症予防対策に十分対応できている。学校生活もコロナ前に戻りつつある。マイナスな部分をコロナのせいにするのではなく、しっかり見極めていきたい。

体の免疫力が低下しているのか欠席の子供が増えている。合わせて、体だけではなく心の免疫力も低下しているのではないかと。子供たち同志のトラブルが増えている。修復するのに時間がかかったり、修復しても繰り返してしまう。保護者を交えての対応もある。しかし、このトラブルが心の免疫力を高くするもので、そこを育ててあげなければいけないと思う。

昨年の教育懇談会で、コロナで子供たちは我慢すること、消極的になることを学んでしまったという話があった。もし、心の免疫力が低下しているのであれば、困っている場面があるのではないか。子供の自殺者が過去最高だった。小学生も増えている。困った時に人に頼るという力(受援力)を学校生活の中でつけてあげなければならないと思っている。

【山本 PTA 会長】

4年ぶりに夏祭りを7月29日に飲食なしゲーム形式で開催予定。学校がイベント会場なので、普段見ない学校でのいい体験になると思う。

会長になって3年目になったが、PTA活動が子供たちのためではなく、大人たちのために頑張っている感じがある。何が大事なのか悩んでいる。町会の子供会の会長も経験していて学んだこと、PTAというものを目的ではなく手段にしたらいいのではないかと思う。PTAを通して、人と知り合い、地域との交流が生まれる。つまりPTAを頑張るのではなくPTA活動をする事でまわりが広がりコミュニティになっていく。さらにPTAを通して地域が一つとなって災害に強い街になっていくことがいいのではないか。

子供たちは知らない人には挨拶しないが、知っている人には挨拶すると思うので、知り合いを増やす「一億人みんな友達プラン」をPTAを通して出来たらいいと思う。

【第十一中】

【高田校長】

4月に着任し、まず、600人の生徒の学校にしては、校庭と体育館が狭いと感じた。しかし、生徒朝礼を体育館でやってみたら、意外とできた。生徒たちも落ち着いてやることができた。それが、小さな自信になった。運動会もコロナ前のように生徒全員、保護者、地域の方を呼んでできた。しかし、先生たちが案外忘れていて、戸惑いも多くて、このまま進めていくと混乱するのではないかと思った。それで、段階を踏みながら行事をすることで、先生たちに自信つけてほしい。

コロナの影響か、1年生は解放感、2年生は自重、3年生は我慢。

小学校にお願い。スマホの使い方が悪質化している。悪いことをSNSにあげる。1年生がスマホを持って、友達が増えて嬉しくてやっているようだ。小学校でも、スマホの使い方の指導をしてほしい。

【三富 PTA 会長】

制服リユースを行っている。6月と2月。いらなくなった制服、着られなくなった制服、卒業生が置いていってくれた制服などリサイクルしている。

8月5日に「おやじも祭り」開催予定。事前登録140名参加予定。

紙ベースの連絡物をC4th Home & School（学校と保護者を繋ぐアプリ）を使って連絡している。

5-2) フリートーク

【櫻田青少年委員】

中学校で問題があるように、インスタグラムやTikTokで自己の承認欲求がでていて、内輪だけで楽しんでいる感覚だろうが、その教育が家庭でできていない。

【第十一中\_高田校長】

やはり、SNSでの目立ちたい、悪いことが格好いい、目立って格好いいとなっていて、モラルルールが出来上がっていない。1年生は特に顕著であり、2,3年生になると無くなっていく。新たな課題。



【足立小\_松田 PTA 会長】

やはり、親がネットを分からないので、スマホの使い方を教えられない。

【弥生小\_村川 PTA 会長】

大人たちが提供するコンテンツが YouTube に負けている。子供たちは YouTube や TikTok が面白くなっているので、大人たちがもっと世の中の面白さや世界の面白い遊びなどを教えてあげないといけない。昨年スノーボードを経験し、こんな面白いことがあるのかと、自分の子供とやったら、子供も面白くなった。大切なのは、大人たちが面白いと思える、YouTube に負けないコンテンツを提供することだと思う。子供と一緒に楽しむことが大切だ。

【弘道小\_伊藤 PTA 会長】

自分の子供が中学 2 年生だが、辛い話だ。人のインスタライブを見て、劣等感を感じてしまっている。人の動画を見て、自分も動画をあげなくてはならないということ、みんなが繰り返してしまっている。親も注意する、止めるというラインをどうしたらいいのか葛藤している。

【櫻田青少年委員】

学校教育でするものではなかったもので、家庭教育でするものだった。私たち世代が、子供たちが楽しいと思えるコンテンツを地域の方と一緒に作れると良い。

6. 総括、講評 足立区青少年委員会副会長 嶋田 健一

お疲れ様でした。

私も PTA を経験したが、ゼロベースで立ち上げる必要があると言っていたことを思い出した。その時は、全員加入だったが、今は自由選択になっている。一回無くしてみたら、本当に必要なのか分かる。コロナに苦しめられたが、新たな考え方を生み出してくれるとポジティブに考えていく必要がある。なくしていくのではなく、作っていくという考え方でいけたら良い。

この教育懇談会もやる意義があるのかという考えもあっていいが、今日の教育懇談会に出席して、私はやる意義があると感じた。

本日はありがとうございました。

7. 閉会の辞 足立区青少年委員会第 5 ブロック委員 櫻田 芳之





## 令和5年度 足立区青少年委員会 第7ブロック教育懇談会

開 催 日	令和5年6月30日	会 場	足立区立六木小学校体育館																																	
時 間	16:30～18:15																																			
参 加 者	足立区子ども家庭部青少年課管理調整係長 白石光洋 様 足立区青少年委員会 多島会長・松崎副会長・塚本ブロック長 (第13ブロック)  都立足立東高等学校、区立おおやたこども園、第12中学校、 第13中学校、谷中中学校、中川小学校、中北小学校、中川東小学校、 辰沼小学校、六木小学校から各校の校長先生・開かれた学校づくり協議 会・PTA会長、主任児童委員、スポーツ推進委員、 第7ブロック青少年委員 計43名																																			
会 議 次 第	<table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 70%;"></td> <td style="text-align: right;">司会</td> <td>白井 委員</td> </tr> <tr> <td>開会の辞</td> <td></td> <td>白井 委員</td> </tr> <tr> <td>当ブロック長挨拶</td> <td></td> <td>三橋 委員</td> </tr> <tr> <td>足立区青少年委員会挨拶</td> <td></td> <td>多島 会長</td> </tr> <tr> <td>来賓挨拶 足立区子ども家庭部青少年課管理調整係長</td> <td></td> <td>白石光洋様</td> </tr> <tr> <td>来賓紹介</td> <td></td> <td>西村 委員</td> </tr> <tr> <td>足立区青少年委員会参加者紹介</td> <td></td> <td>西村 委員</td> </tr> <tr> <td>各校の発表（テーブルディスカッション形式）</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>質疑応答</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>参加校代表</td> <td style="text-align: center;">足立区立六木小学校校長</td> <td>田中琢也様</td> </tr> <tr> <td>閉会の辞</td> <td></td> <td>関 委員</td> </tr> </table>				司会	白井 委員	開会の辞		白井 委員	当ブロック長挨拶		三橋 委員	足立区青少年委員会挨拶		多島 会長	来賓挨拶 足立区子ども家庭部青少年課管理調整係長		白石光洋様	来賓紹介		西村 委員	足立区青少年委員会参加者紹介		西村 委員	各校の発表（テーブルディスカッション形式）			質疑応答			参加校代表	足立区立六木小学校校長	田中琢也様	閉会の辞		関 委員
	司会	白井 委員																																		
開会の辞		白井 委員																																		
当ブロック長挨拶		三橋 委員																																		
足立区青少年委員会挨拶		多島 会長																																		
来賓挨拶 足立区子ども家庭部青少年課管理調整係長		白石光洋様																																		
来賓紹介		西村 委員																																		
足立区青少年委員会参加者紹介		西村 委員																																		
各校の発表（テーブルディスカッション形式）																																				
質疑応答																																				
参加校代表	足立区立六木小学校校長	田中琢也様																																		
閉会の辞		関 委員																																		
テ ー マ	『コロナ禍後の生徒の生活（教育）環境に対して学校、 P T A、地域に望むこと！』																																			

### [懇談会記録]

第1グループ 発信者 : 六木小学校 校長 田中様

○ 運動会は、何のためにあるのか。指導要領で体育の授業内容は決まっている為  
 体育学習発表会という名目に変更すべきではないかとグループメンバーに相談したと  
 ころ名目は運動会にした方がよいという意見。または、運動会には捉え方の違いがある  
 お昼も、給食にして欲しい。または、祖父母も含め家族みんなで、食べるお弁当がいい  
 などの意見もある。教員も働き方改革が問題となっている今、先生の負担を減らせるよ  
 うに出し物を絞れば保護者からの要望とはずれてしまう。このようにコロナ後の運動会  
 についてより良いあり方をさぐって頂きたい。

第2グループ 発信者 : 中川小学校 校長 土屋様

○ 秋の運動会では、家族でお弁当を食べ地域の方も参加できるものにしたい。

出し物を2学年毎にやり、お父さんは、ビデオ。お母さんは、スマホ撮影。子供たちへの拍手は多い方が良いので、地域の方も見て頂き一緒に声援を送る。それが子供たちの励みとなる。

今年行われます展覧会では、地域の方の作品も展示し地域の方も含め一緒に展覧会を作っていきたい。6年生は学級委員をしながら地域の方々の作品紹介をさせて頂く。

地域に生きる子供として最も大事なことになると思います。六木小学校では、かっぱクラブという活動を月に1回土曜日にされていたという話を聞かせて頂きました。

出来れば9月頃には、再開したいとおっしゃっておりました。地域の方から何かを教わり挨拶ができるそんな地域との繋がりを大切にしたい。

第3グループ 発信者 : スポーツ推進委員 堀内様

○ 最近、子ども達がマスクを外していることが多くなり、以前の生活に戻りつつあります。ここ4年、色々な活動がほとんどなかったのも、対面での対応や挨拶の大切さをこれからも子供たち伝えていけたらと思っています。コロナになり人との関わりが薄くなってしまった。その反面、学校は、デジタル化が進み良かったと思う事もあります。今後は、PTAと地域と学校と連携をしながらコロナ禍で、出来なかったことを復活させながら色々なことをやっていきたいと思っています。

第4グループ 発信者 : 第十二中学校 校長 上岡様

○ SNSや課金などによるトラブルがある。また、自転車事故の場合、小学生は被害者となることが多いが、中学生以上は加害者となり、家族の財産を処分しても充てないことがある。子供たちに注意喚起をして理解をさせている。そんな中で、学校を預かるものとしてありがたい話は、共通して言えることで、学校に普通の教育活動が戻ってくれたという事です。学校行事を通して子どもが身に付けているスキルというもの



をコロナ禍の3年間で、大きく失われました。中学校の立場でいうと今の中学3年生は、小学校の高学年時は、令和2年で、1年のお世話ができなかったと聞いています。下級生のお世話は、大事なことです。何となく入ってきた時の様子を見ますとリーダー性が薄れたと感じました。学校と地域と家庭が団結し子供を守り育てていく、そして経験値を高めいくことにより、人格を形成することが大事です。

第5グループ 発信者 : 中川小学校 PTA会長 山中様

○ コロナ禍を振り返り、私事ですが娘は、小学校4年生になります。コロナの真っ只中、校庭で入学式を迎えた学年です。その時、娘は小学生になれるのかどうか心配でした。各校でもその後オンラインを活用しながら分散登校があり学校教育につきましては、教職員のご尽力のお陰だと感じました。学校行事では、大きく遅れたと思いますが、新しく得たものもあったと振り返っております。オンラインツール、ZOOMを活用した授業やペーパーレス化、紙での配布から配信へ分散登校では、3日に1日登校する。その1日を楽しみに、子供たちが登校する。教職員の皆様も1日のために、子供たちを迎える準備をする。学校は何のためにあるのかという目的を考えさせられました。今年の、中川小は中川フェスティバルや、開かれた学校づくり協議会主催の様々な企画も予定しています。町会でも、お祭りなどの企画もして頂いております。コロナが明けたと言い切れる訳でないのですが子供たちの笑顔のために、最大限配慮しながら保護者、地域学校の皆様と連携しながら進めていきたいです。

第6グループ 発信者 : 第十三中学校 校長 菊間様

○ 望むこととしましては、マスクの話をたくさんさせて頂きました。特に中学生、女子生徒がマスクを外したがる、いつ外せるのか、これはコロナが全ての理由ではないと思われ明確な結論には至りませんでした。それ以外には、児童生徒の自己肯定感やアイデンティティの差別をなくすというような話がありました。これも新型コロナと直接関係あるのかは分からないのですが、LGBTですとか、そういった面で新型コロナにかかった辺りから学校の方もきまりの見直しなど含めてと周りとの関係というも

のも模索する時期に入ったのかと思っております。

また、コロナ禍によって運動会や文化祭等1人1人の個性を発揮できる機会が失われていると考えます。他者とのコミュニケーションの回復、これから少しずつ周りとのコミュニケーションを計りながら、人間関係を構築すると共に、その中で自分というものはどういう人間なのかと見つめ直す、そういった時代になって欲しいと願います。

第7グループ 発信者 : 第十三中学校 P T A会長 小野瀬様

○ 学校、P T A、地域でお互いの活動が見えるような環境づくりをしていき、より多くの経験と体験を増やしていきたいと思っております。その中で学校側が、P T A、開かれた学校づくり協議会の方に遠慮なく言葉を発せられるような関係性を作って頂きたいと思っております。その関係性が子供たちの成長にも繋がっていくと思います。宜しくお願い致します。

私の子供の話ですが、4年ぶりに部活動の試合を見学しました。制限のない中、声を出し合った子供たちの笑顔がとても印象に残りました。学校の制限の中で苦しんできた子供たちもいます。だいぶ緩和されてきましたので、ある程度、学校側も子供たちの羽を伸ばさせて欲しいとも思います。

第8グループ 発信者 : 中川北小学校 校長 加瀬様

○ 職員に学校は地域のものと何度も何度も言っております。学校は、我々のものではなくて地域の財産を我々が利用させてもらって子供への教育活動を行わせて頂いております。保護者や地域の意見や考え方を反映される場でなくてはいけない。

今日皆さんとお話をさせて頂いて有意義だと思っております。先ほど別のブロックからのお話もあったのですが、本校も色々な事情がありまして、今年は秋に運動会を行います。熱中症の心配がないところが一番大きいのですが、中川小と一緒に、午後までやります。数年前に、保護者へのアンケート取った時は、圧倒的にやめて欲しいと言われた親子お弁当昼食をやってみようと思っております。開かれた学校づくり協議会で、元P T A会長の現町会長をされている方が、自分達の時はやっていたのでできたらやっ

てご覧と後押しされたので是非やってみようと思います。また、盆踊りがありますが子供を出してご覧と言って下さいましたので、昨日から休み時間に体育館で踊りの練習をしています。4年生と6年生の男女チームが歌って踊ってくれると楽しみにしています。本日のグループ、中学校関係の方が多く部活の練習時間をもっと長く取れないか、黙食から早く脱皮をして欲しいとの意見がありました。本校の保護者からも、いつまで前向き給食をやるのだと言う少数の方からお話がありました。確かに向かい合わせで給食をと半分は思っていますが、自分の知り合いの教職員が多く罹患して学校を閉めるという状況も起きておりますので、まだ厳しいという気持ちは、自分の中であります。外国のネイティブ先生から英語の授業を受けさせてあげて欲しいという意見もありました。中川北の子供たちは、十二中と十三中にお世話になっておりますけれども、進学した子供たち、また保護者からも、とてもよい学校ですとお聞きし子供たちを丁寧に育てて頂いて本当にありがたいと思っております。

デベロップメンタルディソーダーズの言葉はご存じでしょうか。発達障害のことです。彼らは一般の子と同じような動きがとれず中北の子供は非常に苦しんでいます。

しかし、中学に行くとキチンとやっている。中学の先生方、保護者の皆様のご指導が立派であり、見習いたいと改めて思いました。



## 令和5年度 足立区青少年委員会 第8ブロック教育懇談会

開 催 日	令和5年7月13日	会 場	勤労福祉会館（プルミエ） 第2洋室
時 間	18時30分～19時30分		
参 加 者 (敬称略)	<p>足立区教育委員会青少年課 課長 物江 耕一朗  足立区青少年委員会 会長 多島 三好  足立区青少年委員会 副会長 松崎 顕治  足立区青少年委員会3ブロック長 木島 俊江  [青井小学校]  校長 鯉沼 哲/P T A会長 安田 直人/開かれ会長 関根 裕子  [加平小学校]  校長 倉島 敬和 / P T A会長 大久保 孝雄/開かれ会長 丸山 悦男  [栗島小学校]  校長 淵脇 薫/P T A会長 阿部 大介/開かれ会長 鍋谷 哲司  [東栗原小学校]  校長 伊地知 広竹  [平野小学校]  校長 小用 昇/P T A副会長 伊藤 法哉/開かれ会長 遠山 整一  [青井中学校]  校長 菊入 伸二/P T A会長 倉谷 広章/開かれ会長 芝 文男  [栗島中学校]  校長 豊崎 努/P T A会長 笹尾 健臣/開かれ会長 平田 丈雄  [東島根中学校]  校長 大瀧 訓久/P T A会長 雨宮 友子/開かれ会長 首藤 広行  [青少年委員] 鈴木 奏子 嶋田 健一 杉村 吉紀 澁谷 義光  小野 明 本田 隆志 染谷 高志 米永 博【計33名】</p>		
会議次第	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 主催者挨拶 足立区青少年委員会第8ブロック長 鈴木 奏子</li> <li>* 青少年委員会会長挨拶 足立区青少年委員会 会長 多島 三好様</li> <li>* 来賓挨拶 足立区教育委員会青少年課 課長 物江 耕一朗様</li> <li>* 学校長挨拶 青井中学校校長 菊入 伸二様</li> <li>* 開かれた学校づくり協議会会長挨拶 青井中学校開かれ会長 芝 文男様</li> <li>* 討論会形式による意見交換（ファシリテーター 嶋田健一）</li> <li>* 講評 足立区青少年委員会 副会長 松崎 顕治様 足立区青少年委員会3ブロック長 木島 俊江様</li> <li>* 閉会のことば 足立区青少年委員会 第8ブロック 嶋田 健一</li> </ul>		
テ ー マ	『未来の教育を支える働き方改革』 ～今、求められるP T A・地域社会の役割～		
<p><b>[懇談会記録]</b>  初めに、教員の仕事量と時間という点について、参加者の共通理解のため、東栗原小学校 伊地知校長先生よりお話いただきました。  <b>【小学校の場合（東栗原小）】</b></p>			

教員の就業時間は8時出勤、16時30分退勤

給食の時間も勤務時間であり児童の最終下校は15時30分のため、休憩は15時30分から16時15分の間に取ることができることになっている。(この時間帯にしかとれない。)

そのため翌日の授業準備は、休憩後から退勤までの間で行うこととなる。

しかし、複数の科目の授業準備をこの短時間で全てできるはずはなく、教員の仕事はそもそも定められた時間内では終わらないのが現実である。

このような余裕のない中でも、教員たちは子どもが好きでこの仕事に就いたのであるから、がんばってこなそうとするが、疲弊して辞めてしまう者もいる。

地域活動に参加することが大事なことはわかっているが、代休をとることもままならない状況であるため校長先生は教員に強いることはできない。

教員の数を増やせばいいのではないかと、という論理もあるが、教員の仕事がブラックで大変だと言われている昨今、教員のなり手がなく単純に数を増やそうとすれば教員の質が下がり、子どもたちに悪い影響がでてくる。

また、教員の質が落ちれば、同じ仕事をこなすのに時間数が増えることになり、改革の意味がなくなる。

次に中学校の場合について、青井中学校 菊入校長先生、東島根中学校 大瀧校長先生に伺いました。

#### 【中学校の場合】

学校、科目にもよるが中学の場合は科目専任であり授業のない時間に多少余裕があるため、授業準備や子どもたちのケアに時間を使うことができている。

部活動に関しては部が強くなればなるほど、教員の勤務時間が増えるという現実がある。

区より各種支援員の派遣を受けて助かっているが、その要員の管理面では負荷が増している。

このような現状で、地域、PTAはどのように先生方をサポートして、連携していくかをそれぞれで考えました。

会場の中ではまだ、この問題について論議、検討している開かれた協議会はありませんでした。

しかし、開かれた協議会の事業が児童の課外体験のサポートになっているものもあり、助かっているとの学校意見がありました。

すぐに答えが出るような問題ではないが、

- ・この現状を保護者や地域も理解することが大切ではないか
- ・教員のレベルアップや保護者への教育が有益ではないか

という意見が出ました。

最後に、栗島中学校 豊崎校長先生より、「未来の教育を支える＝未来を支えるのは子ども達」であることを忘れず、このように皆で考えることが大事であるというご意見をいただき、引き続きそれぞれで検討していきたいという意識を出席者で共有して閉会となりました。

令和 5 年度 足立区青少年委員会 第 9 ブロック教育懇談会

開催日	令和 5年6月30日	会場	花畑第一小学校 体育館
時間	18時から19時30分 懇親会：20：00～		
参加者	青少年課物江課長、大西副会長、嶋田副会長、第5ブロック前島ブロック長 花畑小学校・花畑第一小学校・花畑西小学校・花保小学校 桜花小学校・花畑中学校・花畑北中学校・花保中学校 各校、校長先生、副校長先生、開かれた学校づくり協議会会長 PTA 役員 2 名、青少年委員		
会議次第	1、 開会の辞 司会 古川 2、 ブロック長挨拶 眞田ブロック長 3、 教育委員会挨拶 物江課長 4、 青少年委員会挨拶 大西副会長 5、 来賓紹介 生井委員 6、 講話 『地域の架け橋』～青少年委員の役割・活動 7、 第9ブロック活動・個人活動紹介 村上委員 8、 学校紹介 9、 閉会の辞 森 委員 * 集合写真撮影		
テーマ	『地域の架け橋』～青少年委員の役割・活動		

【懇談会記録】

..... コロナも5類となり、ようやく以前のように人数制限がない状況での開催となりました。  
 ..... 校長先生方、並びに副校長先生、昨年はお呼びすることができなかった、開かれた学校づく  
 ..... り協議会会長、PTA 会長または、PTA 役員の方々にご参加いただき地域の子どもたちを見  
 ..... 守る方々との懇談会となりました。校長先生、副校長先生など変わられこの地域を知ってい  
 ..... ただくためにも『地域の架け橋』をテーマとし、青少年委員の役割・活動に理解して頂くべ  
 ..... く、物江課長に講話を依頼し、青少年委員についてお話をさせていただきました。.....

..... また、足立の子どもの貧困についてもお話を伺い参加者の方々からは、とても興味深かつ  
 ..... たと寄せられました。第9ブロックの活動・個人活動についてもお伝え出来、今後の活動の  
 ..... 理解を得られたかと思います。講話後の学校紹介では、各校の自慢など PR 合戦が楽しくも  
 ..... ありました。和やかな雰囲気の中、教育懇談会を終了することができました。.....

..... 終了後は、会場を移し雰囲気そのままに、懇親会を開催し充実した教育懇談会及び懇親会と  
 ..... なりました。.....



## 令和5年度 足立区青少年委員会 第10ブロック教育懇談会

開 催 日	令和5年 7月 7日	会 場	竹の塚地域教育センター1階会議室
時 間	18時00分～19時30分		
参 加 者	青少年対策竹の塚地区委員会（小島会長） 洺江町会自治会連合会（芦川会長） 教育委員会青少年課（物江課長、白石係長） 青少年委員会（多島会長、芦川副会長、眞田第9ブロック長） 洺江小学校、洺江第一小学校、保木間小学校、西保木間小学校、 竹の塚小学校、中島根小学校、洺江中学校、六月中学校、竹の塚中学校 各学校の校長、PTA会長、PTA副会長、開かれた学校づくり協議会会長 第10ブロック青少年委員（小林、橋本、大西、人見、武田、吉田（雅）、 芦川、吉田（弓）、高橋） 参加者 67名		
会議次第	<p style="text-align: right;">司会 人見 委員</p> <p>一、開会のことば <span style="float: right;">橋本 委員</span></p> <p>一、青少年委員会第10ブロック長あいさつ <span style="float: right;">小林ブロック長</span></p> <p>一、来賓紹介 <span style="float: right;">吉田（弓）委員</span></p> <p>一、青少年対策竹の塚地区委員会会長あいさつ <span style="float: right;">小島 様</span></p> <p>一、洺江町会自治会連合会会長あいさつ <span style="float: right;">芦川 様</span></p> <p>一、足立区青少年課 課長あいさつ <span style="float: right;">物江 様</span></p> <p>一、青少年委員会会長あいさつ <span style="float: right;">多島 様</span></p> <p>一、各学校長、PTA会長、協議会会長 紹介 <span style="float: right;">芦川委員</span></p> <p>一、青少年委員自己紹介</p> <p>一、議 題 ①講演 足立区衛生部こころとからだの健康づくり課 <span style="float: right;">課長 網野 様</span>  <span style="float: right;">糖尿病対策担当 管理栄養士</span>  <span style="float: right;">係長 千ヶ崎 様</span></p> <p style="text-align: center;">②講評 六月中学校 <span style="float: right;">校長 宮下 様</span></p> <p>一、閉会のことば <span style="float: right;">大西 委員</span></p>		
テ ー マ	<b>食から学ぶ子どもの心と体の健康</b> —食育の大切さ—		
<p><b>[懇談会記録]</b></p> <p>昨年は校長先生・PTA会長、PTA会員、青少年委員のみでの開催だったが、新型コロナウイルス感染症の5類移行により規制が解除され、従来のように来賓招待を再開。また、PTAからの参加を5～7名に増員し、3年ぶり講演会形式での開催とした。</p>			

## ◎ あだちベジタベライフについて（講師 網野課長）

- ・足立区は健康寿命がと平均よりも約2歳短い
- ・健康無関心層の存在と重症化までの放置傾向
- ・医療費の上位に「糖尿病」「腎不全」
- ・糖尿病患者の医療費が23区内で最も高い

以上のことから

平成25年より糖尿病対策始まる。

区民の皆さんと一緒に解りやすく取り組めるものとして「野菜を食べる」と掲げた。

### 【3つの基本方針】

- ① 野菜を食べやすい環境づくり
- ② 子どものころからの望ましい生活習慣の定着 ← 食育
- ③ 糖尿病重症化予防

では、区民の健康状態は？（40歳前の健康づくり検診より）

10年間の対策で減ってはきたが・・・

- ・男性4人に1人は糖尿病の数値が高め（ヘモグロビンA1c 5.6%以上）
- ・男性3割が肥満
- ・女性5人に1人は糖尿病の数値が高め（ヘモグロビンA1c 5.6%以上）
- ・女性23区内ワーストワンの肥満率

では、子どもたちは？

- ・小学1年生は国・都と差はあまりないが、学年が上がるにつれ、差が広がる
- ・コロナをきっかけに子どもたちの肥満が増加
- ・小学生は不足している栄養素はないが、食塩相当量が過剰
- ・中学生は食物繊維が不足傾向、食塩相当量が過剰

### ① 野菜を食べやすい環境づくり

- ・ベジタベライフ協力店 827店  
野菜たっぷりメニュー、ミニサラダが先に提供されるメニュー  
ベジチェックを実施、景品に野菜をプレゼント 等
- ・民間企業との連携  
コラボレシピの作成、配布、給食メニューの販売企画 等

### ② 子どものころからの望ましい生活習慣の定着

中学卒業時まで身に付ける 3つの実践力「あだち食のスタンダード」

「子ども」から「家庭」へ

- 1：1日3食野菜を食べるなど望ましい食習慣を身につける→チャレンジシート
- 2：栄養バランスの良い食事を選択できる
- 3：簡単な料理を作ることができる→サポート BOOK

### ③ 糖尿病重症化予防

- ・スマホ de ドック、薬局でのヘモグロビンA1c測定、40歳前の健康づくり検診
- ・保健師による家庭訪問

### ◎ 家庭で取り組める食育（講師 千ヶ崎係長）

家庭でも手軽にできる食育について

なぜ、「野菜から」・・・野菜を食べる習慣が身につく  
食べ過ぎ予防→肥満予防  
血糖値の急上昇を抑える

#### 「ひと口めはやさいから」

学校では浸透してきているので、家庭でも意識して食卓に野菜を出し、早食いではなくゆっくり食べるにより肥満予防になる。お子さんと一緒に取り組んで欲しい。

#### 「望ましいおやつとは」

コロナ禍でおやつが自由な時間に食べられるようになってしまい、一度、生活環境が崩れてしまうとなかなか戻せなくなってしまう。おやつの選び方が大切。

「質」・・・体に必要な栄養素として乳製品や果物が望ましい

「量」・・・食事に影響のない量、150～200キロカロリー

「時間」・・・食事に影響のない時間、3～4時

### ◎ 構えないでもできる食育

- ・元気ごはんのポイントは「赤」血や肉になる食品「黄」エネルギー源になる食事「緑」からだの調子を整える食品 プラス 乳製品 が理想
- ・ハードルが高いと感じるときは、レトルト食品、冷凍食品や缶詰を常備し、栄養素を補っていけばよい
- ・食事づくりのお助けレシピ（QRコード）を紹介しているので、ぜひ活用して欲しい
- ・学校の家庭科で使う「自分で作ろう」ごはん・みそ汁編 サポートBOOKの監修に六月中学校宮下校長先生にご尽力いただいた。区のホームページで見ることができる

**住んでいるだけで自ずと健康になれるまちをめざして**

普段から、

家族や自分の健康に気をつけていただき、**あだちベジタベライフ**

「ひと口めはやさいから」を地域の方々にも広めていただきたい

### ◎ 六月中学校 宮下校長先生の講評

足立区の小中学校では、会話はできるも机はまだ前を向いて給食を食べている。本日のメニューは七夕給食。行事食や季節に合わせた献立、地域の野菜を使った献立が作られている。

日本一の給食と言われる足立区は他区と比べて野菜の調理がとても美味しい。



また、食育にかけている力が違う。区民の健康を支えるための食事について、生産者、医師、区長を交えて会議をしている。

給食の残滓率も毎日出して平均5%ほど。取り組みを始めてから減っている。授業の中でもサポートBOOKを活用して、献立づくりや食育ポスター作成などの取り組みをしている。

ただ、学校給食は3食のうち1食、のこり2食は家庭。いかに家庭で食べるかが大事。今日の話をもとに家庭でもPTAの活動でも積極的に進めていただきたい。

中学生は夏休みに「我が家のシェフになろう」家族の一員として何かしようと、栄養バランスの取れた美味しい食事をつくって、家族に食べてもらい感想を聞いて学校に提出する取り組みがある。

病気になったら食育の段階ではない。元気なうちにできるのが食育。元気が続いていくように、この地域で元気な方が増え足立区全体をリードして行っていただきたい。

衛生部の方々、青少年の方々、今後とも共に勉強していきましょう。

令和5年度 足立区青少年委員会 第11ブロック教育懇談会

開催日	令和5年7月3日	会場	第十四中学校
時間	懇談会：午後6時～午後7時15分 懇親会：午後7時40分～午後9時30分		
参加者	<p>来賓</p> <p>青少年対策伊興地区委員会 会長 元井 一壽 様          足立区教育委員会 青少年課長 物江 耕一郎 様          足立区青少年委員会 会長 多島 三好 様          足立区青少年委員会 副会長 松崎 顕治 様          青少年委員 10ブロック ブロック長 小林 理恵子 様</p> <p>出席者</p> <p>11ブロック各校の 校長 副校長 PTA 会長 青少年委員          第十四中、西新井中、伊興中、西新井第二小、伊興小、西伊興小、          東伊興小、栗原北小</p>		
会議次第	<p>司会 佐々木 勝 委員</p> <p>開会の辞 司会者</p> <p>挨拶 第十一ブロック長 磯 洋一 委員</p> <p>足立区青少年委員会会長 多島 三好 様</p> <p>懇談進行 磯 洋一 委員</p> <p>テーマ「学校自慢／青少年委員に期待すること」</p> <p>・青少年委員より活動の説明 佐藤 正浩 委員          酒井 廣 委員</p> <p>・各校より発表</p> <p>講評 足立区教育委員会 青少年課長 物江 耕一郎 様</p> <p>閉会の辞 島上 有紀 委員</p>		
テーマ	「各校の学校自慢／青少年に期待すること」		
<p><b>【懇談会記録】</b></p> <p>今年度11ブロック懇談会では、先ず委員にて作成した青少年委員の紹介動画をご覧いただきました。</p> <p>懇談会では各校の学校要覧をご持参頂き要覧を観ながらそれぞれの学校紹介や各校の自慢をして頂きました。各校の特色を生かしたコロナ後の活</p>			

動や普段から大事にしている取り組みをご紹介頂きました。

また、青少年委員よりスクリーンを使用しながら ”青少年委員の使い方” をわかりやすく丁寧に紹介致しました。出席頂きました校長、副校長、PTA 会長からは「SNS 対応の取り組みを一緒に進めたい」や「キャリア教育の人選等のサポート頂きたい」等、ご意見を頂きました。今後の青少年委員の活動についてより深くご理解頂く機会となったのではないのでしょうか。

懇談会終了後、懇親会は和やかな雰囲気の中、4年ぶりの親睦を深める機会となりました。

報告者：佐々木 勝（11ブロック 東伊興小担当）

## 令和5年度 足立区青少年委員会 第12ブロック教育懇談会

開催日	令和5年7月8日(土)	会場	鹿浜いきいき館		
時間	午後2時～午後3時30分				
参加者	足立区教育委員会	青少年課長	物江 耕一郎 様		
	足立区青少年委員会	会長	多島 三好 様		
		副会長	芦川 珠美 様		
		第2ブロック長	田中 則聡 様		
	[小学校]				
	学校	校長	副校長	PTA会長	
	鹿浜第一小学校	中 郡 英 一	流 尾 武 清	大 西 洋 平	
	鹿浜未来小学校	山 下 宗 孝	井 出 誠	本 庄 一 広	
	鹿浜五色桜小学校	西 澤 武	寺 田 明 広	中 村 卓 雅	
	皿沼小学校	加 藤 雅 弘	近 藤 裕 行	飯 田 勝 彦	
[中学校]					
学校	校長	副校長	PTA会長		
鹿浜菜の花中学校	水 谷 正 博	倉 持 貴 子	笠 井 健		
加賀中学校	森 田 卓 司	石 川 慎 一 郎	勝 田 直 樹		
[小中一貫校]					
学校	校長	副校長	-	PTA会長	
新田学園	土 肥 和 久	大 島 充 帆	小学校	佐 藤 由 貴	
		畠 山 芽 含			
		白 石 芳 江	中学校		中 村 晋 作
下 原 政 宏					
[第12ブロック青少年委員]					
学校		青少年委員			
皿沼小学校担当〔第12ブロック長〕		浅 香 一 浩			
鹿浜五色桜小学校担当		横 山 良 和			
鹿浜第一小学校担当		原 田 勉			
鹿浜未来小学校担当		渡 邊 淳 子			
		高 橋 進			
鹿浜菜の花中学校担当		松 崎 顕 治			
加賀中学校担当		太 田 安 昭			
新田学園	新田小学校担当	倉 持 智 光			
	新田中学校担当	諏 訪 法 和			

<p>会議次第</p>	<p style="text-align: center;">[司会] 足立区青少年委員 諏訪 法和</p> <p>開会の辞 足立区青少年委員 太田 安昭  主催者挨拶 足立区青少年委員会第12ブロック長 浅香 一浩</p> <p>来賓挨拶 足立区青少年課長 物江 耕一郎 様  会長挨拶 足立区青少年委員会会長 多島 三好 様</p> <p>自己紹介  進行 足立区青少年委員 高橋 進  足立区青少年委員 倉持 智光  閉会の辞 足立区青少年委員 松崎 顕治</p>
<p>テーマ</p>	<p>コロナ禍後の学校現場が抱える課題について</p>
<p><b>[懇談会記録]</b></p> <p>令和5年度の足立区青少年委員会第12ブロック教育懇談会は「コロナ禍後の学校現場が抱える課題について」をテーマとして開催し、各校の校長・副校長及びPTA会長に参加していただきました。</p> <p>本会の開催にあたり、各校の校長には、事前にコロナ禍後の学校現場が抱える課題を一覧表に纏めていただき、本会では、本内容に沿って、各校の抱える課題を発表していただきました。また、PTA会長からは、保護者の観点から、コロナ禍の経験から学び得た工夫ある活動の内容や学校とPTAとの協力と共感が必要であると再認識し、家庭教育の重要性が求められているなどのお話しをいただきました。</p> <p>各校の抱える主な課題としては、①黙食により給食中の会話がほとんどなく、食事を楽しむというよりも淡々と食事を済ませてしまうことが定着している、②自粛生活の中で、運動量が減り、体力の低下とケガの増加につながっている、③ICT化が急速に進んだことにより、教員の指導力の対応や児童のPCの取扱いなどの諸問題が表面化している、④マスクを自ら外すことのできない児童が多く、熱中症が心配である、⑤学校行事が復活してきている中で、教員が過去の形態や取組みを忘れてしまったり、知らなかったりすることにより、円滑な運営ができない状況にある、⑥プール指導がなかったため、泳げない児童が多数いるなどが挙げ</p>	

られました。

今回の教育懇談会を通じて、各校の抱えるコロナ禍後の課題を詳細に把握できた事は、我々青少年委員にとっても大変有意義な会となりましたが、諸課題に係る対策を講じていくためには、地域の支援リーダーである青少年委員の立場として、課題の本質や要件を再評価し、新たな解決策や改善策を見つける手助けを行う必要があることを改めて実感いたしました。

### 《教育懇談会の様子》

浅香ブロック長の挨拶



物江課長の挨拶



多島会長の挨拶



ご来賓の皆さま



懇談会の様子





以上



## 令和5年度 足立区青少年委員会 第13ブロック教育懇談会

開 催 日	令和5年6月27日(火)	会 場	足立区立足立入谷小学校
時 間	午後5時から6時まで		
参 加 者	<p>足立区教育委員会(青少年課課長)：物江 耕一郎  足立区青少年委員会(副会長)：原田 勉  足立区青少年委員会(副会長)：山田 直美  足立区青少年委員会(第12ブロック長)：浅香 一浩  青少年対策舎人地区委員会(会長)：小金井 寛  入谷町会(会長)：市川 眞  入谷自治会(会長)：八川 祥龍  舎人自治会(会長)：笠原 清子  舎人区民事務所(地域担当係長)：古川 慎  舎人第一小学校：(校長) 濫谷 あゆみ・(副校長) 山田 実也  (PTA会長) 長谷川 保・(青少年委員) 小田川 利幸  足立入谷小学校：(校長) 田村 正弘・(副校長) 榎本 洋子  (PTA会長代理) 正木 真弓・(青少年委員) 清野 美貴  古千谷小学校：(校長) 吉川 浩司・(副校長) 西 行二  (PTA会長) 萩本 秀晃・(青少年委員) 前田 典彦  入谷南中学校：(校長) 遠藤 映悟・(副校長) 槌谷 保  (PTA会長) 星野 裕子・(青少年委員) 板越 由希子  舎人小学校：(校長) 田子森 好房・(副校長) 蓑輪 幸一  (PTA会長) 近藤 祐子・(青少年委員) 塚本 京子  入谷中学校：(校長) 小出 泰隆・(副校長) 根本 祥子  (PTA会長) 佐藤 佳代子・(青少年委員) 若山 克彦</p> <p style="text-align: right;">参加総数 33名</p>		
会 議 次 第	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 開会の言葉</li> <li>2. 主催者挨拶</li> <li>3. 来賓挨拶</li> <li>4. 会場校挨拶</li> <li>5. 来賓紹介</li> <li>6. 出席者紹介</li> <li>7. 各校の取り組みについて発表</li> <li>8. ディスカッション</li> <li>9. 総評</li> <li>10. 次年度会場校挨拶</li> <li>11. 閉会の言葉</li> </ol>		
テ ー マ	コロナ禍から通常的生活へ戻していく中で行っている取り組み		
<b>[懇談会記録]</b>			
令和5年度、足立区青少年委員会第13ブロック教育懇談会では、コロナ禍から通常的生活へ戻していく中での取り組みをテーマに、各校の校長先			



生、副校長先生および PTA 会長に参加していただきお話を伺いました。  
さらに、今年度は町会長、自治会長を来賓としてお招きし昨年度よりも多い人数で開催することができました。

コロナが 5 類感染症に移行したことで学校生活が少しずつコロナ以前の形に戻ってきています。

給食はまだ同じ方向を向いて食べていますが黙食ではなくなりました。

制限のあった実技の授業もほぼ通常の授業内容に戻っています。

コロナ禍では控えていた PTA 行事も今年は開催している学校が多いようです。

しかし、コロナ禍で子どもたちは、学校行事が中止になるなど通常であれば経験できるはずの経験ができず、その影響は大きいようです。体力の低下により怪我をする子が増えたり、声掛けをしてもマスクが外せない子どももいて心配です。

例えばマスクに関しては、同調圧力に任せるのではなく自分で判断しよう。それと同時に、相手の気持ちを考えて行動しよう。と各校指導しているとのことでした。

また、コロナが明けて運動会や授業参観など保護者が学校へ足を運ぶ機会が増える中で、保護者同士のトラブルが増えていて学校が対応に費やす時間が多くなっているとの話もあがりました。保護者同士のコミュニケーション不足が原因のようです。

少しずつ戻ってきてはいるがコロナ以前のように戻るにはまだまだ時間がかかると感じているとのことでした。

今回、教育現場からのお話を伺い、子どもたちにとってコロナの影響が想像以上に大きいことを感じました。

青少年委員としても学校任せにせず、先生方、PTA、地域の方々と相談しながら子どもたちの成長をサポートしていきたいです。



教育懇談会当日の様子

